

現地密着型農政推進懇談会



北陸農政局福井県拠点

現地密着型農政推進懇談会とは

北陸農政局福井県拠点では、その時々テーマについて、同一地域の複数の農業生産者の方々と県、市町、JA等の農業関係機関の方々が一堂に会して意見交換を行う現地密着型農政推進懇談会を開催しています。

この懇談会では、生産現場の課題・要望等について情報共有し、関係機関それぞれの立場から知識や経験を活かした解決に向けた助言を行うこと等を通じて、地域の生産者を地域の関係者が皆で支えあう雰囲気作りや生産者間の連携を図ることができればと考えています。

これまでに開催した懇談会の概要をご紹介します。



【令和元年度】

- 1 「三里浜砂丘地」における園芸の拡大を目指す
- 2 地域特産品「梅」の生産拡大を目指す
- 3 中山間地域の後継者確保、農業生産活動の維持向上を目指す
- 4 施設の新設を契機に園芸作物の生産拡大を目指す
- 5 国営土地改良調査管理事務所と連携した取組み（白ネギ生産者）

令和元年7月9日 坂井市内
令和元年8月8日 若狭町内
令和元年12月10日 南越前町内
令和元年12月20日 福井市内
令和2年2月28日 坂井市内

【令和2年度】

- 6 国営土地改良調査管理事務所と連携した取組み（なし生産者）
- 7 若手農業者と新規就農者確保を目指す
- 8 親元就農者からの要望や課題から円滑な経営継承に向けて
- 9 同一地域における農事組合法人の円滑な経営継承に向けて

令和2年10月28日 坂井市内
令和2年10月29日 福井市内
令和2年11月27日 鯖江市内
令和3年3月9日 永平寺町内



【令和3年度】

- 10 中山間地域の農業生産と多面的機能の維持向上に向けて
- 11 女性農業者や女性を雇用する農業者と課題解決を目指す
- 12 「園芸に取り組む女性農業者」の現状と課題

令和3年6月24日 美浜町内
令和3年7月27日 坂井市内
令和3年12月16日 敦賀市内

【令和4年度】

- 13 活力ある若手農業者の定着に向けて
- 14 地域農業のリーダーとして活躍する農業士と農業の未来を考える

令和4年12月16日 越前市内
令和5年1月30日 越前町内

【令和5年度】

- 15 地域完結型による耕畜連携の現状と課題を考える
- 16 若手農業者の定着に向けた課題と将来展望
- 17 担い手や後継者育成について認定農業者と考える

令和5年4月20日 大野市内
令和5年11月28日 小浜市内
令和6年2月1日 あわら市内



1 「三里浜砂丘地」における園芸の拡大を目指す

- 県内有数の園芸産地における「三里浜砂丘地」で園芸に取り組んでいる農業者からの課題や関係機関の取り組み等を共有し、更なる産地の発展を目指す。

○ きっかけ

県内でも有数の園芸産地である三里浜砂丘地において、メロンや人参、果樹、大根などを露地及び施設により栽培している農業者、地域の営農推進協議会、県、JAの参加により懇談会を開催し、更なる園芸の振興を目指す。

○ 取組の概要

坂井市内の園芸地域において、農業者、国、県及び農業関係団体が一堂に会した懇談会を開催し、地域の園芸農業者が直面している諸課題の解決にむけた意見交換を行い、情報共有と課題解決のため連携強化を図る。



令和元年7月9日 坂井市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 気軽に相談できる窓口や参加者間による情報交換のきっかけとなった。
- ・ ハウスの規格や価格面での要望に対し、災害時等の被害を最小限とするための対候性ハウス導入を説明し理解を求めた。
- ・ 農地の集積や規模拡大では、地区の協議会の取り組みが理解され、更なる地区での取組を推進することを確認した。

2 地域特産品「梅」の生産拡大を目指す

- 県内特産のひとつである梅は、近年、生産量が減少しているため、生産現場における課題、関係機関の取り組み等を共有し、梅の生産拡大をめざす。

○ きっかけ

県内嶺南地区の特産である梅は、福井梅として需要があり、市場では高い評価を得ており、価格も比較的高値で推移している。

一方、生産現場では、高齢化による離農、老木化、鳥獣被害などから生産量が減少している。

各関係機関の梅の生産拡大にむけた取り組みの周知と梅の生産から出荷、加工までの情報を共有することにより生産の拡大を目指す。

○ 取組の概要

若狭町内において、農業者、国、県、町及び農業団体が一堂に会した懇談会を開催し、梅産地としての地域の農業者が直面している課題と、関係機関の取り組みを情報共有し、関係者が生産拡大に向けた取り組みを行った。



令和元年8月8日 若狭町での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・参加者間により課題や情報を共有し、産地として出荷量の安定と確保、さらに生産拡大への雰囲気を感じた。
- ・各々の機関における担い手育成、生産拡大、園地整備、販売促進に向けた各種取り組みの継続が必要。
- ・地域における梅生産者間の情報を共有することで廃園の発生を防止する。
- ・作業の機械化や老木化への対応などへの支援を要望。

3 中山間地域の後継者確保、農業生産活動の維持向上を目指す

- 中山間地域という不利な条件下の地域における農業者の現状を共有し、農業後継者の確保と担い手の育成により、農業生産活動の維持向上を目指す。

- **きっかけ**

中山間地域において農業生産活動を行うには、生産基盤や鳥獣被害など不利な条件が多く、農業後継者や担い手の確保、農地の集積などが課題となっている。また、地域内における農業者間の連携や話合いの不十分な部分が見受けられる。

このため、地域の農業者や法人等と関係機関が一堂に会し、地域農業の問題点や課題、将来の担い手確保など意見交換を行うことで支援のきっかけを見出す取り組みを行った。



令和元年12月10日 南越前町内での意見交換の様子

- **取組の概要**

南越前町内において、農業者、国、県、町及び農業団体が一堂に会した懇談会を開催し、中山間地域の農業者が直面している課題を共有し、地域からの基盤整備や農地集積、法人化などの要望に対し、関係者から助言等を行った。

- **懇談会での意見・要望など**

- ・ 農業者が求める営農上の改善には、基盤整備等による農地の集積など、地域での意見集約と自治体と連携した課題解決が必要。
- ・ 鳥獣被害対策の支援では、集落単位として町の鳥獣対策協議会に要望しながら対応する。
- ・ 農業者の個々の将来的な計画について、情報を共有することが必要。
- ・ 多様な担い手による地域の農業生産活動維持のためには、関係機関と連携した地域での話し合いが必要。

4 施設の新設を契機に園芸作物の生産拡大を目指す

- 集出荷施設の新設を契機として、J A主体の直売所等を活用した園芸作物の生産・販売の促進と地域における水田園芸の取組拡大を目指す。

○ きっかけ

米の需要が減少傾向にある中、米の需要に応じた生産・販売を推進していく上で、水田園芸の取組は農業者の所得確保の観点からも重要である。

福井市清水地区においては、これまでもJ Aが主体となり、直売所等を活用した園芸作物の生産・販売を積極的に行っており、平成30年度に新たに真空予冷集出荷貯蔵施設等を整備したことを契機に、更なる水田園芸の取組拡大が期待される。この好機を捉え、園芸作物の生産・販売促進と水田園芸の取組拡大に向けて関係者間で話合うべく、懇談会を開催した。



令和元年12月20日 福井市内での意見交換の様子

○ 取組の概要

福井市清水地区において、農業者、国、県、市及び農業団体が一堂に会し、水田園芸による園芸作物の生産・販売の拡大と農業者が直面している課題の解決に向けた意見交換を行い、情報共有を図った。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 大規模産地との競争よりも、「朝採れ」等の付加価値を高めた販売戦略が必要。
- ・ 水田では畑地に比べて上手く作物を作ること自体が難しく、販売戦略の検討までたどり着けていない。
- ・ 水田地帯であるため、野菜の作業を手伝った経験のある人が少なく、地元の協力を得るのが難しい。
- ・ 施設導入も一案だと思うが、施設と集落の農地の両方を管理していくことは難しい。
- ・ 若い世代が、早い段階で法人代表や担い手になることで、地域で安心して営農を継続でき、地域農業も発展するため、第三者継承を促すための支援・制度があるとよい。

5 国営土地改良調査管理事務所と連携した取組み（白ネギ生産者）

- 福井県拠点と西北陸土地改良調査管理事務所が連携し、それぞれの得意分野を活かして現場に踏み込み、課題解決の一方策として国営事業の活用も視野に地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

国営九頭竜川下流地区の事業が平成30年度に完工。一方、過去に整備された施設の老朽化が目立ち、国営水利システムを再編する事業の具体的な検討を求める声が聞こえてくるようになった。

○ 取組の概要

西北陸土地改良調査管理事務所では、地域農業の将来像を踏まえた新たな事業化の可能性を探る事前調査を実施。

事前調査を踏まえ、福井県拠点に対し、現場での国営事業への機運の高揚や用水利用に関する課題等把握の相談があり、福井県拠点における地元との繋がりを活かし、関係機関と地元の白ネギ生産者による現地に密着した懇談会を提案し開催した。



令和2年2月28日 坂井市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 農業の課題解決の一方策として事業の実施に向けた理解と機運が認められた。
- ・ 農業用水の利用期間の拡大、代替えとして井戸による用水確保の実態が訴えられた。
- ・ 条件の良い農地が借りられるよう要望。
- ・ 坂井北部丘陵地においても三里浜地区同様にハウスリースの事業が展開されるよう要望。
- ・ 労働力の確保が課題であり、システムとして関係機関に窓口設置を要望。
- ・ 丘陵地は法面が大きく管理が大変なことから、多面的機能直払いは水田並みの助成を要望。

6 国営土地改良調査管理事務所と連携した取組み（なし生産者）

- 福井県拠点と西北陸土地改良調査管理事務所が連携し、それぞれの得意分野を活かして現場に踏み込み、課題解決の一方策として国営事業の活用も視野に地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

国営九頭竜川下流地区の事業が平成30年度に完工。一方、過去に整備された施設の老朽化が目立ち、国営水利システムを再編する事業の具体的な検討を求める声が聞こえてくるようになった。

○ 取組の概要

西北陸土地改良調査管理事務所では、地域農業の将来像を踏まえた新たな事業化の可能性を探る事前調査を実施。

事前調査を踏まえ、福井県拠点に対し、現場での国営事業への機運の高揚や用水利用に関する課題等把握の相談があり、福井県拠点における地元との繋がりを活かし、関係機関と地元のなし生産者による現地に密着した懇談会を提案し開催した。



令和2年10月28日 坂井市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 農業の課題解決の一方策として事業の実施に向けた理解と機運が認められた。
- ・ なし販売では収入を考慮し、直売とJA出荷を調整している。
- ・ なしの全体的な需要は若干低下しているが、なし農家は需要に応じて植栽している。
- ・ なし農家の高齢化による廃業があるが、生産拡大のための賃貸可能件数が少なく賃料も高額である。
- ・ なし園として継続するには、辞める場合のルールや農家間のコミュニケーションと関係機関の連携が必要。
- ・ 園芸ではハウスリースがあるが、なしでもハウスリースを要望。
- ・ 小規模な改植や棚補修への支援を要望。

7 若手農業者と新規就農者確保を目指す

- 就農後一定期間経過した若手農業者との意見交換を通じ、今後の新規就農対策のあり方を検討するとともに、将来、新規就農者が地域農業の中核として維持発展していくことを目指す。

○ きっかけ

慢性的な後継者不足や担い手への農地集積が限界を迎える中、地域農業の維持に向けて新規就農者の活躍が期待される。新規就農者への支援として農業次世代人材投資資金により最長5年間給付を行ってきたものの、経営開始6年目以降の所得確保等の様々な課題が見受けられ、定着率も低調である。

以上のことを踏まえ、今後の新規就農支援のあり方と新規就農者が地域農業の中核として発展していく上で必要な支援を検討すべく、懇談会を開催した。



令和2年10月29日 福井市内での意見交換の様子

○ 取組の概要

福井市内において、農業次世代人材投資資金の交付実績がある農業者、国、県、市及び農業団体が一堂に会し、新規就農支援の充実と農業経営の維持発展に向け、農業者自身の経験に基づく就農時や営農継続に当たったの課題を共有したほか、今後必要となる支援について意見交換を行い情報共有を図った。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 新規就農では、農地の他に作業スペースやトイレ等の整備も必要であり、大きな初期投資が必要となるが、いきなり借入することは新規就農者にとってハードルが相当高い。
- ・ 確定申告で苦勞するため、就農時に税関係のアドバイスやノウハウを教わる機会があればよかった。
- ・ 人手確保が困難な状況を踏まえると、新規就農から一定期間経過した若手農業者にも里親として研修生の受入に協力してもらえれば幸い。雇用する側とされる側との相性も重要であり、農繁期に人を集めやすくするためには、普段から地域のネットワークを広げておくことも必要である。

8 親元就農者からの要望や課題から円滑な経営継承に向けて

- 若手農業者のうち近年親元で就農した者を対象に意見交換を行い、地域における担い手確保と着実な経営継承をめざす。

○ きっかけ

福井県内でも、多くの農業者が高齢化と後継者不足から、新たな設備投資や経営展開が困難な状況にある。

一方で、園芸を中心とした農業者にとっては、親元就農により後継者が確保され、スムーズに経営継承を行ったケースも散見されており、後継者確保と経営継承への取り組みを行うこととした。

○ 取組の概要

鯖江市内において、近年親元就農した3名の農業者、国、県、市及び農業団体が一堂に会した懇談会を開催し、それぞれの立場から、親元就農での経営継承について、親子・親族間の継承での課題や要望、生産活動の維持向上に向けた課題等について意見交換を行い、条件整備や支援策の要望等を関係者で共有した。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 家族経営では、経営の詳細が把握できず知識不足もあるので経営全体に関する指導を受けたい。
- ・ 農業者だけでなく異業種との意見交換で視野を広げることも必要。



令和2年11月27日 鯖江市内での意見交換の様子

9 同一地域における農事組合法人の円滑な経営継承に向けて

- 同一町内の農業法人（農事組合法人）との意見交換を通じ、経営継承における課題をくみ取り、担い手の確保と円滑な経営継承による地域農業の維持発展を目指す。

○ きっかけ

福井県においても、高齢化による後継者不足や担い手への農地集積が限界を迎え、存続自体も厳しい状況にある農業組織も多くなってきており、地域農業及び農地維持のためには、担い手の確保や経営継承が必要である。

このような中、永平寺町の農業法人から法人同士の意見交換会の開催要望があったこと、また、農業支援サービス事業体として、農地維持、雇用創出等に取り組みたいなどの意見があったことから、町やJA、他の農業法人を集めた懇談会を開催した。



令和3年3月9日 永平寺町内での意見交換の様子

○ 取組の概要

永平寺町内の農事組合法人、国、県、町及び農業団体が一堂に会し、農業法人における経営継承や後継者育成のほか、地域農業が抱える課題の解決に向けて、それぞれの立場から意見交換を行い、担い手の確保と円滑な経営継承のための環境整備や支援措置に関する意見・要望を共有する場とした。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 後継者育成や経営継承に向けて、基盤整備や収益を確保するためのブランド化等の取組が必要であり、関係者間での連携が重要である。
- ・ ブランド化を通じて販路を確立できれば、地域全体の所得向上にもつながり、農業の魅力を向上させることになるのではないかと。
- ・ 大型機械を各組織で所有するのは非効率であり、機械更新やリース導入に係る支援をお願いしたい。
- ・ 小さいほ場が多い中山間地域でも活用可能なスマート農業技術の開発や導入支援をお願いしたい。

10 中山間地域の農業生産と多面的機能の維持向上に向けて

- 中山間地域集落における農業生産向上の取り組みと直接支払い制度等の活用による多面的機能の維持向上及び地域の活性化をめざす。

○ きっかけ

各地の中山間地域では高齢化による生産活動の低下や農業の後継者不足等が急速に進展、更に鳥獣被害の拡大など、地域農業は危機的な状況に直面している。

このため、地域での中心的な農業者や集落協定に携わっている関係者から、農業と地域活動の現状、今後の地域活性化への糸口を見出すための取り組みを行うこととした。

○ 取組の概要

美浜町内における農業法人、農業者及び集落協定等関係者、国、県、町及び農業団体が一堂に会した懇談会を開催し、各々の立場から農業生産活動は元より、地域振興や鳥獣被害対策などの現状や要望について意見交換を行い、新たな中山間地対策の支援策を模索する場とした。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 農業だけに囚われず若者が集まることで情報発信と農業情報の提供で連携強化の契機となった。
- ・ 関係人口の受け入れと新規就農者への環境・条件整備など、産業と地域政策の両面から関係機関の連携が必要。



令和3年6月24日 美浜町内での意見交換の様子

11 女性農業者や女性を雇用する農業者と課題解決を目指す

- 女性農業者、女性を雇用する農業者との意見交換を通じ、現場の課題の共有と課題解決に必要な支援を検討し、女性の農業参入及び定着を目指す。

○ きっかけ

福井県における基幹的農業従事者に占める女性の割合は29.5% (H31) と全国平均の40% (H31) を大きく下回っている。一方、農業を発展させていく上で、農業経営における女性参画が重要な役割を果たしている事例が多数あることから、女性の農業参入を促し、能力を発揮できる環境整備の重要性が高まってきている。

農林水産省でも「農業女子プロジェクト」を始めとして、女性活躍のための各種取組を推進しており、女性の農業参入と定着に向けて、女性農業者が抱える課題の汲み取りと課題解決に必要な支援の検討を行うため、関係者間での懇談会を開催した。



○ 取組の概要

坂井市内において、女性農業者、女性を雇用する農業者、国、県、市及び農業団体が一堂に会し、女性の農業参入及び定着に向けた課題と支援について意見交換を行い、情報共有を図った。



令和3年7月27日 坂井市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 女性でも扱いやすいスマート農機の導入支援や機械（アタッチメント）の軽量化などをお願いしたい。
- ・ 経営者として、細かな気配りの他、女性従業員の意見や要望を積極的に受け入れるよう心掛けている。
- ・ 消費者としての主婦や子育て等の経験や感覚が、女性の経営参画の上で重要であると後から気付いた。
- ・ 女性が経営の中核を担うことが、今後の女性参画の増加につながっていくため、女性の感性を活かせる環境作りとその後押しが重要。

12 「園芸に取り組む女性農業者」の現状と課題

- 園芸に取り組む女性農業者の生産活動の現状や女性が営農を継続するための課題共有をすることで、今後の女性の就農や営農継続に係る施策促進に繋げる。

○ きっかけ

米中心の営農から、より収益性の高い園芸作物への転換の必要性が高まっている中、夫婦等の家族経営協定締結の進む敦賀市において、営農の重要な担い手である女性農業者に焦点を当て、露地及び施設で園芸作物を栽培している女性農業者を対象に取り組みを行った。

○ 取組の概要

敦賀市内において、農業者、国、県及び関係団体が一堂に会した懇談会を開催し、地元の園芸に取り組む女性農業者の生産活動での現状や、女性が営農を継続するための課題等について意見交換を行った。



令和3年12月16日 敦賀市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 機械作業や力仕事は、女性だけの営農において課題だと思ふ。
- ・ 直売所に出荷しているが、集荷時期がほかの農業者と重なりがち。売上向上のため栽培時期をずらす等するが苦心している。6次化にむけて加工所を整備したので、今後は加工にも力を入れていきたい。
- ・ 女性登用について、集落の役員等が回ってきたときにその内容で夫婦どちらがするか等工夫している。
- ・ 農業は、会社勤めよりは時間の融通が利く。子育てや介護のある女性にとっては、周りの協力は不可欠だが、家庭の事情があっても継続しやすい業種なのではと思う。
- ・ 母と二人で営農しており、労働力不足解消のため、今後、農福連携に取り組み、効率化を図りたい。
- ・ 参加した農業者同士のつながりがあまりなかったことから、情報交換のきっかけとなった。

13 活力ある若手農業者の定着に向けて

- 地域で活躍している若手農業者との意見交換を通じ、活力ある若手農業者が今後も定着、発展していくことをめざす。

○ きっかけ

持続可能な力強い農業の実現のためには、農業の内外からの新規就農を促進し、世代間バランスの取れた農業構造にしていくことが重要である。

このため、越前市及び南越前町において、意欲的に生産活動を行っている若手農業者の経営発展や、農業従事への意欲増進を図るとともに、新規就農者の確保、定着に向けた話し合いを行うべく懇談会を開催した。

○ 取組の概要

越前市内において、49歳以下の若手農業者6名と、国、県、市町及び農業団体が一堂に会した懇談会を開催し、生産活動の現状や定着に向けた課題等について意見交換を行った。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 大量に発生するもみ殻について、処分場への運搬には費用もかかるため、何かよい活用方法はないか。
- ・ 地元の方は地元でとれるお米や野菜のおいしさに希薄であると思うので、地元の食材の良さを伝えるため、地元のもの食べる機会を増やす事業を考えている。
- ・ JGAPに取り組んだことで、高価格で優先的に買ってもらえるようになった。
- ・ もっと若い世代（20代）の農業者を対象に懇談会を開いてほしい。「話を聞いてくれる場」の提供があると、発信力や行動力を発揮すると思う。



令和4年12月16日 越前市内での意見交換の様子

14 地域農業のリーダーとして活躍する農業士と農業の未来を考える

- 地域農業のリーダーとして活躍する農業士との意見交換を通じ、今後の経営改善と地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

越前町農林水産課主催の「丹生農業士会と越前町職員との意見交換会」において、農業経営の課題について意見交換を行った。令和5年1月に改めて、水田活用促進対策、米に係る諸問題、中山間地対策等について、さらに踏み込んだ議論を行うべく懇談会を開催した。

○ 取組の概要

越前町内において、丹生地区の農業者、国、県及び関係団体が一堂に会した懇談会を開催し、中山間地における農業の現状や課題解決に向けた意見交換を行った。

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 多収品種での飼料用米生産を検討するにあたり、どのような品種を作付ければいいのか不安がある。
- ・ 借地の場合、畦の草刈等の農地管理は耕作者が行っており、その労力や経費は大きな負担となっている。
- ・ 担い手に農地を預けた地権者は、農地管理に関心が薄く、多面的機能支払いの活動に支障が出ているケースもある。
- ・ 獣害がひどい山際の水田は、作物の栽培をあきらめ、獣の侵入防止策や自然災害防止対策を施す土地として活用してはどうか。
- ・ 農事組合法人設立当初の世代は、いつまでも第一線で頑張るだけでなく、後継者となる世代が入りやすい環境作りをしないといけない。
- ・ 行政側は、地域ごとの状況を踏まえた上で、その地域の将来展望を考えた政策をとらなければならない。



令和5年1月30日 越前町内での意見交換の様子

15 地域完結型による耕畜連携の現状と課題を考える

- 地域完結型による耕畜連携のサイクルの現状と課題について、関係者間で共有するとともに、支援できる枠組みを構築。

○ きっかけ

輸入飼料原料の価格上昇や供給不安が続く中、福井県においては、既存の耕畜連携の取組を維持・発展させるための情報共有の場や取組を支援する枠組み作りが必要な状況にあった。

このことから、大野市南六呂師地区の酪農家、堆肥製造事業者、市内の飼料生産者及び行政機関（福井県・大野市）等と意見交換を行うこととした。

○ 取組の概要

酪農家、堆肥製造事業者、市内の飼料生産者及び行政機関（福井県・大野市）が集まり、耕畜連携に係る取組状況や課題を話し合い、糞尿等の原材料の不足や稲WCSの需要の不透明等から生産拡大できない課題を共有した。今後は、耕畜連携の維持・発展に向け、施設整備や機械導入、担い手育成等の支援に連携して、取り組むことが確認された。



令和5年4月20日 大野市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 畜産飼養数が減少、堆肥生産量は減少傾向にあり需要はあるが原料の糞尿が不足。（堆肥製造事業者）
- ・ 肥料等が高騰するなか稲WCS生産においてもラップ等の生産資材が高騰している。（飼料生産者）
- ・ 稲WCSの広域流通を行う場合、運賃の負担を考慮した場合の需要が不透明。（飼料生産者）
- ・ 供給を受けた稲WCSは屋外保管となるが六呂師地区は山間部であり鳥獣被害が多い。（酪農家）
- ・ 子実とうもろこしは家畜飼料として有効であり活用したいが大きなロットでの供給を希望。（酪農家）
- ・ 資材等のコスト上昇により経営が厳しくなっており、後継者確保が難しい。（酪農家）

16 若手農業者の定着に向けた課題と将来展望

○ 若狭地域の若手農業者との意見交換を通じ、若手農業者の確保・定着につなげる

○ きっかけ

慢性的な後継者不足や担い手への農地集積が限界を迎える中、地域農業の維持に向けて若手農業者の活躍が期待される。新規就農者の確保、定着に向けた話し合いを行うべく、意欲的に生産活動を行っている若手農業者との懇談会を開催した。

○ 取組の概要

小浜市の福井県嶺南振興局において、若狭地域の若手農業者団体 “WakasaAgri21” のメンバー6名、国、県、市町及びJAが一堂に会した懇談会を開催し、今後農業を続けていく上での課題などについて意見交換を行った。（農業者のうち、5名は雇用就農、1名は独立就農）

○ 懇談会での意見・要望など

★独立就農について

- ・新規就農者に対する支援の要件が厳しく考えていない
- ・雇用就農は、会社に守られている感があり、このまま続ける
- ・農地を守るために独立就農したが、経営は厳しい
- ・今は研修中だが、いずれ独立したい

★今後の課題等

- ・水稻中心の経営を検討しているが、冬期間の収益確保が課題
- ・園芸作物に挑戦してみたが、獣害に遭い、継続していけない
- ・獣害対策は、耕作者で対策することが多く、農業に無関心な地権者が多い
- ・雇用就農して、技術面の実績はできたので、今後は経営にも携わっていききたい



令和5年11月28日小浜市内での意見交換の様子

17 担い手や後継者育成について認定農業者と考える

- あわら市認定農業者会と「食料・農業・農村基本法見直し」や「担い手育成、確保」をテーマに意見交換を行い、認定農業者の現状と課題を整理し、地域農業の発展を目指す。

○ きっかけ

あわら市認定農業者会は毎年の総会の後に勉強会を実施しており、その勉強会の席でJ-クレジット制度の説明とあわせて意見交換を実施することとなった。

意見交換は、食料安定供給の基礎となる地域農業の現状と課題解決を目的に開催した。

○ 取組の概要

出席した認定農業者（40名）のうち、水稻、園芸、法人、集落営農等の経営形態ごとに選出された代表者8名を中心に、経営の状況、課題及び担い手育成等のテーマについて意見交換を行った。

（園芸農家2名、水稻農家6名のうち集落営農法人2名、法人4名）



令和6年2月1日 あわら市内での意見交換の様子

○ 懇談会での意見・要望など

- ・ 地権者は農地を預けるだけで、草刈り等農作業への参加には消極的である。
- ・ 人件費が高騰する中、担い手育成、新規就農につながる雇用就農への更なる支援が必要。
- ・ 農業は、既存の施設や農地を利用し就農することで、他業種に比べて経営リスクを抑えた起業が可能。
IT化が進んだ農業現場や「儲かる農業」など、サラリーマンと比較しての就農の魅力発信が必要。
- ・ J-クレジットを活用した中干し延長に興味がある。
- ・ 農作業の省力化を一層進め、従業員一人当たりの耕作面積を増やすことでの経営の向上を目指す。
- ・ 肥料や農薬を適切な使用量とするためには、ほ場ごとの土壌状況を把握しておく必要がある。